

佐賀県研究成果情報（作成 2022 年 2 月）

[情報名] 露地栽培温州ミカンにおけるチャノキイロアザミウマの発生と被害の様相は園地に隣接する樹種で異なる

[要約] 露地栽培温州ミカンにおけるチャノキイロアザミウマの発生活長と被害の様相は周辺環境で異なり、他の寄主植物が隣接する場合、7～9月にかけての発生が多く、被害が進展する。

[キーワード] 露地栽培、温州ミカン、チャノキイロアザミウマ、発生活長、被害様相

[担当] 果樹試験場・病虫害研究担当

[連絡先] 0952-73-2275・kajushiken@pref.saga.lg.jp

[分類] 技術者参考

[部会名] 果樹

[専門] 果樹虫害

[背景・ねらい] 近年、チャノキイロアザミウマ（以下、チャノキ）では、第1～2世代成虫の発生ピークが早まっていることから、露地ミカンでは第2世代を対象に防除時期を追加した。ところが、それでも被害が発生する園地がある。そこで、被害の発生要因を明らかとするために、栽培環境が異なる園地における発生活長と被害の発生様相を明らかにする。

[成果の内容]

1. 周囲をカンキツ類に囲まれている温州ミカン園（図1A）におけるチャノキの誘殺数は、少数ながら連続的に認められ、特に5月中旬頃、6月上中旬頃、8～10月にかけて多い。
2. スモモに隣接する温州ミカン園（図1B）におけるチャノキの誘殺数は、周囲がカンキツ類の場合と比較すると6月上中旬頃まではほぼ同等であるが、それ以降は多い。
3. チャ樹に隣接する温州ミカン園（図1C）におけるチャノキの誘殺数は、周囲がカンキツ類の場合と比較すると、いずれの時期においても概ね多い。
4. チャノキによる温州ミカンの果実被害は、7～8月にかけて多くなり（表1）、中でもスモモ、チャ樹に隣接する園地の被害の増加は顕著であり、特にスモモでは8月以降もさらに被害が多くなることがある。

[成果の活用面・留意点]

1. 調査は佐賀市大和町大願寺周辺の異なる慣行栽培の温州ミカン園で実施した。
2. チャノキの誘殺は、黄色粘着トラップ（ホリバー黄）を用い、地上約1.5mの位置に、2台/園地設置した。
3. チャ樹は自生である。2020年5月2日、2021年5月11日にそれぞれ株元から伐採され、その後再発芽した。
4. チャノキの寄主植物は200種類以上と多く、ナシ、ブドウ、スモモ、チャ等の作物やヒサカキやシキミ等にも寄生する。自生するヒサカキ等の他の寄主植物は、可能な限り伐採して、肥料袋で被覆する等して再発芽に努めるか、もしくはチャノキの発生活動向に十分に注意するとともに、特に夏季は必要に応じて薬剤防除を追加する。

[具体的なデータ]

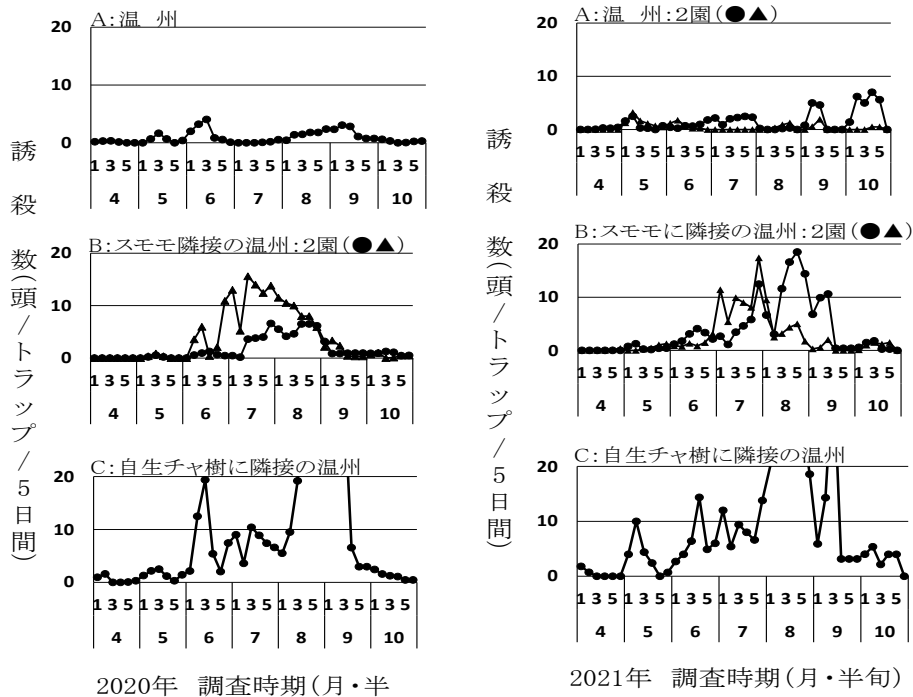


図1 異なる樹種が隣接する露地栽培温州ミカン園の黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの誘殺消長

注)佐賀市大和町大願寺カンキツ団地に黄色粘着トラップ(ホリバー黄)を設置して概ね7～10日間隔で交換、園周辺の環境 A:周囲をカンキツ類に囲まれた温州ミカン園、B:スモモに隣接する温州ミカン園、C:自生チャ樹に隣接する温州ミカン園。

表1 異なる樹種が隣接する露地栽培温州ミカン園におけるチャノキイロアザミウマによる果実被害の推移(2021年)^{a)}

園地番号	調査した温州ミカン園の周囲の環境	被害果率の推移(%)			
		7月1日	8月3日	8月30日	11月16日
1	温州ミカンに囲まれている	4	15	16	8
2	温州ミカンに囲まれている	10	21	17	8
3	スモモ園に隣接している	1	22	16	17
4	スモモ園に隣接している	1	21	52	49
5	自生チャ樹に隣接している	2	25	26	19

a) 図1の調査園地(2021年)と同一の園地である。調査方法:5樹/園地、20果/樹(計100果調査)。11月のみ50果/樹(250果調査)

研究課題名: 食の安全・安心志向に対応した果樹病害虫総合防除技術の確立

予算区分: 国補(消費・安全対策交付金)

研究期間: (2021～2023年度) 2021年度

研究担当者: 衛藤友紀、池田亜紀、近藤知弥